

消費者安全調査委員会の動き 第56号

(平成29年11月20日)

今回の内容：会議情報、委員長等記者会見の様様

会議情報

最近の消費者安全調査委員会での議論についてお知らせします。

第63回消費者安全調査委員会（平成29年11月20日）

○ 玩具による乳幼児の気道閉塞事故事案

玩具による乳幼児の気道閉塞事故事案について審議し、報告書を取りまとめ、公表するとともに、経済産業大臣及び消費者庁長官に対して必要な対策を求めることとしました。

本件事案については、玩具は乳幼児の日常生活の中で広く使われていること、気道閉塞による死亡事故が発生していること、乳幼児という、消費者安全の確保の観点から特に配慮を要する者が主として被害を受け又は受けるおそれがあることから、昨年11月に調査対象に選定したものです。

本調査では、保護者、玩具関連事業者及び教育・保育施設等へのアンケート調査並びに聴取り調査等を実施し、それらの分析を行いました。また、玩具による気道閉塞に至るメカニズムを明らかにするため、コンピューターシミュレーションも行いました。

本調査報告書のポイントは、次の3点です。

一つ目は、アンケート調査によって、どの程度の月年齢、どのような玩具で誤嚥事故が発生しているかについて明らかにしたこと。

二つ目は、シミュレーションによって、玩具による気道閉塞のメカニズムを明らかにすると共に、気道を閉塞させる玩具の大きさや形状等についての知見を得たこと。

最後に、これらの結果を踏まえ、啓発用の資料を作成したことです。

具体的には、今回の調査は、人形用のおしゃぶり型の玩具（参考1 以下「おしゃぶり型玩具」という。）をのどに詰まらせて死亡した事故についての申出をきっかけとしています。申出を受け、事故情報を収集しましたが、事故情報がほとんどありませんでした。そこで、アンケート調査を行い、その結果、玩具による誤嚥事故が発生するのは、6ヶ月～1歳6ヶ月未満が多く、また、玩具の種類では、「ビー玉・おはじき」、「ビーズを使った玩具」、「小さなボール」が多いことが分かりました。



参考1 おしゃぶり型玩具

消費者安全調査委員会の動き 第56号

(平成29年11月20日)

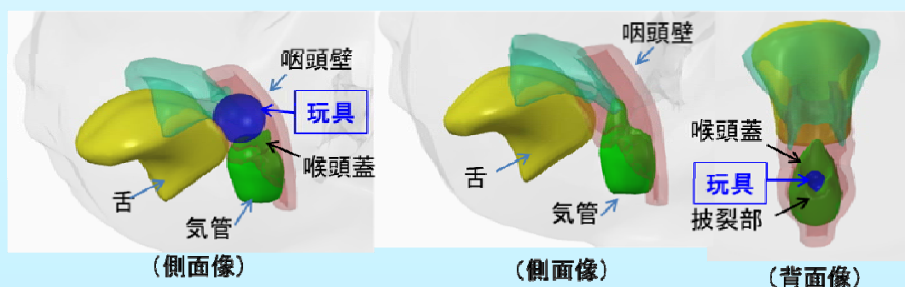
今回の内容：会議情報、委員長等記者会見の様様

会議情報

次に、シミュレーションを行って、玩具がどのように気道を閉塞するかといった気道閉塞事故のメカニズムを明らかにしました。例えば、球形では、比較的大きな玩具は咽頭閉塞型、小さな玩具であっても喉頭閉塞型の窒息が起こることが明らかになりました。

形状は、球形、半球形、楕円体、直方体、立方体、ブロック玩具、どのような形でも窒息リスクが大きいこともわかりました。

さらに、申出のように、大きさや形状からは、のどの閉塞が発生するとは考えにくい玩具が、粘性のある液体等と入り混じって、玩具と液体等が咽頭や喉頭に留まり、気道を閉塞し、窒息に至る可能性があることも示されました。



(a) 咽頭閉塞型窒息例

(b) 喉頭閉塞型窒息例

参考2 咽頭閉塞型窒息及び喉頭閉塞型窒息の例

こうした結論は、乳幼児の行動特性や身体特徴を勘案すれば、口に入ってしまうような大きさの玩具は、どんなものでも危ない、ということを意味しています。

したがって、再発防止策としては、まず、子供を取り巻く関係者全員がその危険性を知ることが最も重要であり、そのために啓発用の資料を作成いたしました。

これらが幅広く行き渡ることが事故の再発防止に有効であると考えています。

詳細は以下をご覧ください。

- 調査報告書

http://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_013/pdf/report_013_171120_0002.pdf

- 動画「窒息事故から子どもを守る」

http://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_013/index.html#teaching_material

- ペーパークラフト「乳児頭部模型」

http://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_013/pdf/report_013_171120_0003.pdf

- ペーパークラフト「乳児くち・のど模型」

http://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_013/pdf/report_013_171120_0004.pdf

消費者安全調査委員会の動き 第56号

(平成29年11月20日)

今回の内容：会議情報、委員長等記者会見の様様

会議情報

- 家庭用コージェネレーションシステム事案
主に、再発防止策と関係行政機関に対する意見について審議しました。
- 住宅用太陽光発電システムから発生した火災等事故事案
事務局からの報告を基に審議しました。
- 一般の方からいただいた「申出」事案
事務局から、類似事例、制度等の関連情報や専門委員の見解などの情報収集の結果が報告され、その内容に基づき調査委員会で検討した結果、そのうち3件については調査を行わないことになりました。残りの案件（36件）については、引き続き、臨時委員、専門委員等の知見も活用しながら、事務局で丁寧に情報収集を行った上で、調査委員会において判断していくこととなります。

部会の動き

- 製品等事故調査部会（11月中旬に開催）
 - ・ 玩具による乳幼児の気道閉塞事故事案
報告書案について審議しました。
 - ・ 家庭用コージェネレーションシステム事案
主に、再発防止策と関係行政機関に対する意見について審議しました。
- サービス等事故調査部会（11月中旬に開催）
 - ・ 住宅用太陽光発電システムから発生した火災等事故事案
事務局からの報告を基に審議を行いました。
 - ・ 電動シャッター動作時の事故事案
調査の実施案について審議を行いました。

委員長等記者会見の様様

委員会後に委員長等の記者会見を行いました。
詳細は以下をご覧ください。

<http://www.caa.go.jp/csic/action/index2.html>